



2019年10月30日

山東医学高等専科学校に行ってきました。

笠井俊文
森 正人

日 程 : 2019年10月13日(日)~20日(日) 7泊8日
講 座 名 : 山東島津放射線技術講座 第3期第7回講義
教 室 : レクチャーホール

山 東医学高等専科学校に笠井先生と行ってきました。はじめての中国でしたが、心強い先生がおられましたので、何の心配もせず充実した日々を過ごさせていただきました(森)。

笠 井はMRIの講義を行いました。受講者は9月に新二年生になった学生と聞き、高校の物理の知識を交えながらMRIの基礎的内容を講義しました。休憩時間を利用して「水一滴(1mm³)中の水素原子核(プロトン)の総数、および3.0T中での過剰プロトン数を求めなさい。」と課題を出しましたが、多くの学生が正解を導いており感心しました。また、講義中に日本の国家試験の問題を提示したところ、講義を熱心に聴いているため問題なく解答していました。講義終盤に日本の国家試験制度および京都医療科学大学における、入学から進級・卒業・国家試験合格の実情(苦労話)を1~2分間紹介したところ、通訳の李教授が早速スライドを撮影され、その後15分くらい熱い講義が始まりました。

森 は本学で担当している「身近な科学」をベースに、「医用画像情報」、「医療情報」、「AI」などの技術的要素を付け加えて教材を準備しました。この科目では、講義後にレポート課題を出すのですが、今回は、その部分をディスカッションにしました。(NHKで放送された)MIT白熱教室のように、学生さんと意見を交換したいと考えたからです。想像どおり、学生さんは積極的に発言してくれました。授業終了後には、大きな拍手をいただきました。また、「いっしょに写真を撮ってほしい」、「サインがほしい」と願い出る学生もいました。「ドッキリではないだろうか」と疑いつつも、うれしさのあまり、顔がニヤけてしまいました。でも、本当に私が講義したのだろうか? そんな思いも心をよぎりました。

逐次通訳してくださる李先生の一言ひとことに、学生さんは大きくなずき、声をそろえて反応していました。先生の講義は、抑揚があり、アクションを交えるものでした。情熱がほとばしっていました。また、先生の手元には、プリントした私の教材があり、そこには、たくさんの書き込みがありました。予習をしてくださっていたのだと知りました。頭が下がりました。私は中国の学生さんに講義をしましたが、それ以上に、李先生から「授業に取り組む姿勢と教授法」の講義を受けたのだと思いました。

さいごに、このような機会をいただきました島津製作所の関係者の皆様、受け入れてサポートしてくださいました山東医学高等专科学校の先生方にお礼申し上げます。また、最後までご清聴くださいました未来を背負う学生さんたちに感謝申し上げます。